

兵庫県保険医協会神戸支部・明石支部 研究会のご案内

# 子宮頸がん 予防ワクチンについて

日時 7月27日（土）午後5時～6時30分

会場 兵庫県保険医協会5階会議室

（JR・阪神元町駅東口を出て南へ徒歩7分）

講師 川崎医科大学 産婦人科学1 教授 中村 隆文 先生

参加費 無料 共催 MSD株式会社

子宮頸がんは発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の持続感染で発症します。病理組織で主に扁平上皮癌と腺癌に分類されます。特に子宮頸部腺癌は予後が悪くがん検診で発見困難です。腺癌は最近の若年女性の子宮頸がんの上昇と一致して上昇しています。自然免疫でHPV感染は2年で感染率が10%まで低下するも、持続感染するケースが癌化します。ウイルスは子宮頸部粘膜の傷から侵入して基底膜の幹細胞に感染して、子宮頸部軽度異形成（CIN1）・中等度異形成（CIN2）・高度異形成～上皮内癌（CIN3）と多段階発癌して浸潤癌となります。

子宮頸がんの予防ワクチンは、2009年12月から日本でも承認され、2013年4月から12～16歳女児の定期接種が開始しました。世界ではワクチン接種後CIN3の発生が減少したと報告されて、最近では子宮頸がんの発生も抑制したとの報告も出てきています。日本では2013年の定期接種開始まもなく重篤な副反応の疑いで、積極的接種勧奨を6年間も中止しています。しかし世界各国では有意な副反応は科学的には証明されていないので継続的に接種を続けています。欧州では70～80%の接種率になり、一方日本では1%以下に減少しています。

日本ではこれから妊娠・出産・育児をしなければならない20～30歳代の若年女性で子宮頸がんが急上昇していますので、HPVワクチン接種とがん検診が重要であることを積極的に発信しなければなりません。 【中村 記】

\* お問い合わせは TEL 078-393-1807 神戸支部担当 小西・前川まで

【参加申し込み】 FAX 返信：078-393-1820 - - - - -

神戸支部・明石支部 研究会に参加します

地区 \_\_\_\_\_ 医療機関・施設名 \_\_\_\_\_

お名前 \_\_\_\_\_ 職種 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

兵庫県保険医協会

326号 2019年6月25日

## 神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

糖尿病研究会 感想文

### 高齢者の特徴を理解し個別の治療が重要



高齢者の糖尿病治療のポイントを話す梶尾先生（左）と講義を聴く参加者たち（右）

神戸支部は5月11日に研究会「高齢者の糖尿病対策～安全かつ良質な糖尿病治療を目指して～」を協会会議室で開催し、会員、スタッフなど53人が参加した。国立国際医療研究センター病院の副院長で糖尿病内分泌代謝科診療科長の梶尾裕先生が講師を務めた。司会を務めた小谷圭先生の感想を紹介する。

日本では高齢者社会が現実のものとして問題になりつつありますが、高齢者の糖尿病も大きな問題となっています。今までの壮年者を念頭に置いた合併症予防を主眼とした治療だけではなく、すでにサルコペニアやフレイル、認知症

といった高齢者特有の病態を踏まえ、これまで以上に丁寧な対応が必要になっていると話されました。

つまり、合併症を抱えた高齢者の特徴をよく（2面につづく）

(1面からのつづき)

理解し、個別化治療が必要になってきているということです。最近、高齢者糖尿病の治療目標が日本老年医学会と日本糖尿病学会の合同ステートメントとして発表されました。梶尾先生からこのステートメントについて詳しく説明いただき、明日への診療に役立つヒントをいただきます

した。そして、先生の関わられた研究活動や情報提供活動についてもお話していただきました。

梶尾先生は5月から副院長に就任されたばかりだそうで、そのようなご多忙の中、神戸までお越しいただき多くの情報をお話しいただき、有意義な日になりました。

【灘区 小谷 圭】

健康と医療について語り合う会 感想文

# アレルギーについて深く学ぶ



森岡先生が手話通訳を介しながらアレルギーの発症や治療法について講演した

神戸支部は5月23日に、あすてっぷ神戸で健康と医療について語り合う会を開催した。これは聴覚障害者らが医療や健康についての情報を学ぼうと定期的に開催する「聴覚障害者の医療を考える会（いのちを考える会）」の講師派遣の要請に応じているもの。東灘区・東神戸病院の森岡芳雄先生が「子どものアレルギー」と題して講演し、市民、聴覚障害者の方を中心に25人が参加した。参加者の感想文を紹介する。

「子どものアレルギー～若いお母さんのために～」というテーマタイトルだったので「自分には無用の内容かなあ」と思いつつも「知りたい」という欲が勝り参加した。結果を先に記すと参加して正解だった。

私は、成人してから複数の食材でアレルギーが出るようになった。本当は食べたいのに、唇や唇が腫れ、しばらく人前に出られない状況を二度と体験したくないので、食い意地を堪えて

(3面につづく)

(2面からのつづき)

いる。周りには、同じ体験の人がいないので、自分が特異体質になった(現実そうなのだけれど)と、この学習の受講までは、密かに辛かった。

講義は、たくさんの映像と、時には手話通訳の方との掛け合い漫才のような話力で、わからないことからくる退屈を感じなかった。私のアレルギーが直ぐに完治するわけではないが、受講後、参加して良かったと思った。いつか、このアレルギーとお別れできるかもしれないとい

う希望がもてたからだ。対象が、子どもや若いお母さんだけではないことをタイトルに盛り込んでもらいたいと思った。万人が受講して、質問があるなら質問して欲しい(森岡先生ならベストを尽くしたご回答をしてくださると信じている)。体調がおかしい時には、自己判断せずに、きちんと受診しようとも思っている。

このような機会を与えてくださったこと、とても感謝している。ありがとうございました。

【参加者 N】

職員接遇研修会を開催

# コミュニケーションでは笑顔が大切



表情や話し方でホスピタリティを形にすることの重要性を話す松田先生（左）と体を使って実践的にコミュニケーションを学ぶ参加者たち（右）

神戸支部は5月18日、協会会議室で職員接遇研修会「患者接遇の基本～笑顔と心遣いのコミュニケーション～」を開催。マネジメントコンサルタントの松田幸子先生が講演し、会員・スタッフら49人が参加した。

松田先生は患者接遇の基本を説明。マナーはホスピタリティを形にしたものであり、視覚（態度・身だしなみ・表情）や聴覚（話し方・言葉づかい・挨拶等）で表現することが大切で

あるとした。中でも表情はとても重要であり、コミュニケーションを図る際、笑顔は相手に安心感や親近感を与える効果があるとした。

参加者はペアを組んで笑顔や表情の練習や観察を行ったり、クッション用語やクレーム対応スキルを学んだ。

参加者からは「患者さんが安心して受診していただくためにも自然に笑顔になれるように気をつけたい」などの感想が寄せられた。